

# 第2期館山市まち・ひと・しごと創生 総合戦略

(館山市人口ビジョン改訂版)

2019年10月

千葉県館山市

# 《 目 次 》

第1章 はじめに.....	1
1. 第2期市人口ビジョンの位置づけ.....	1
2. 国の第1期長期ビジョン.....	2
3. 県の第1期長期ビジョン.....	3
第2章 館山市の人口動向分析.....	4
1. 人口の現状分析と将来推計.....	4
(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移.....	4
(2) 出生・死亡数、転入・転出の推移.....	5
(3) 自然増減と社会増減の影響.....	6
2. 人口の移動分析.....	7
(1) 性別・年齢階級別人口移動の状況.....	7
(2) 人口移動の最近の状況.....	8
(3) 転入者・転出者の状況.....	9
(4) 通勤・通学者の状況.....	14
3. 出生に関する分析.....	16
(1) 合計特殊出生率の推移.....	16
(2) 出生数の推移.....	16
(3) 出生数に対する母親の年齢階層比率の推移.....	17
(4) 20～39歳人口の推移.....	17
4. 産業・雇用動向の分析.....	18
(1) 産業別就業者数と特化係数.....	18
(2) 産業別付加価値額.....	19
(3) 有効求人倍率の推移.....	20
(4) 職業別・産業別求人状況.....	21
第3章 人口の将来展望.....	24
1. 人口減少問題に取り組む基本的な視点.....	24
2. 目指すべき将来の方向.....	25
3. 人口の将来展望.....	28
(1) 第1期市人口ビジョンの将来展望と現状との比較.....	28
(2) 第2期市人口ビジョンにおける将来展望.....	29

# 第1章 はじめに

---

## 1. 第2期市人口ビジョンの位置づけ

国は、人口減少・少子高齢化を抑制するため、2014年度に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「第1期国長期ビジョン」）と、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第1期国総合戦略」）を閣議決定しました。

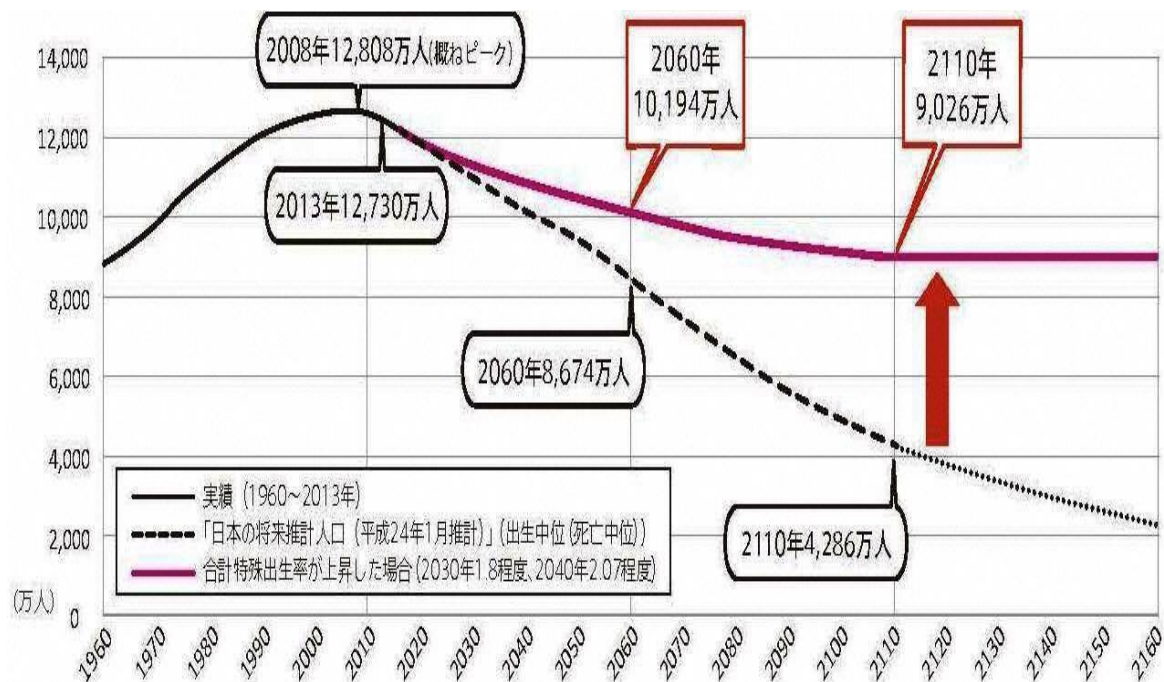
地方自治体においても地方版の人口ビジョンと総合戦略の策定に努めることとされ、館山市も2015年度に「館山市まち・ひと・しごと創生（館山市人口ビジョン）総合戦略」（以下「第1期市人口ビジョン・総合戦略」）を策定し、施策の展開に努めてきたところです。

2019年6月、国は、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を閣議決定し、同年12月頃を目途として「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期国総合戦略」）を閣議決定する考えを明らかにしました。

この「第2期館山市人口ビジョン」（以下「第2期市人口ビジョン」）は、「第1期市人口ビジョン・総合戦略」策定後の変化を踏まえ、改めて、館山市の人口に関する現状を整理するとともに、目指すべき将来の方向性と人口の展望を示すものです。

## 2. 国の第1期長期ビジョン

国は、「第1期国長期ビジョン」(2014年度)において、『2060年に1億人程度の人口を維持する』という方向性を示しています。その際、合計特殊出生率を2030年に1.80、2040年に2.07と仮定しています。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」(出生中位(死亡中位))

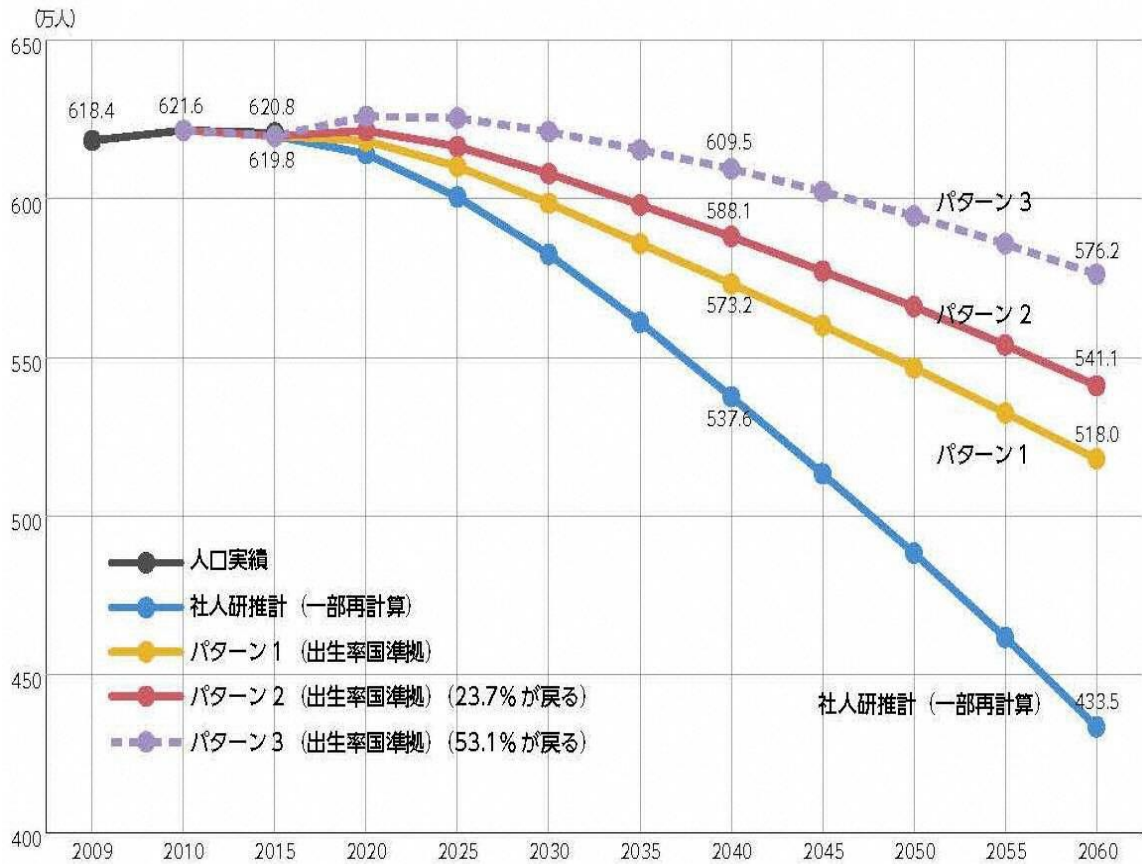
出典：内閣府「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」2014年度

### 〈目指すべき将来の方向〉

- ◆ 2060年に1億人程度の人口を維持する
- ◆ 2050年代に実質GDP成長率1.5~2%程度を維持する

### 3. 県の第1期長期ビジョン

千葉県は「人口ビジョン」(2015年度)において、『2060年に約540～580万人を維持する』という展望を示しています。その際、第1期国長期ビジョンと同様に、合計特殊出生率を2030年に1.80、2040年に2.07と仮定しています。



※人口実績：千葉県毎月常住人口調査（各年10月1日現在）ただし、2015年については暫定値。

出典：千葉県「人口ビジョン」2015年度

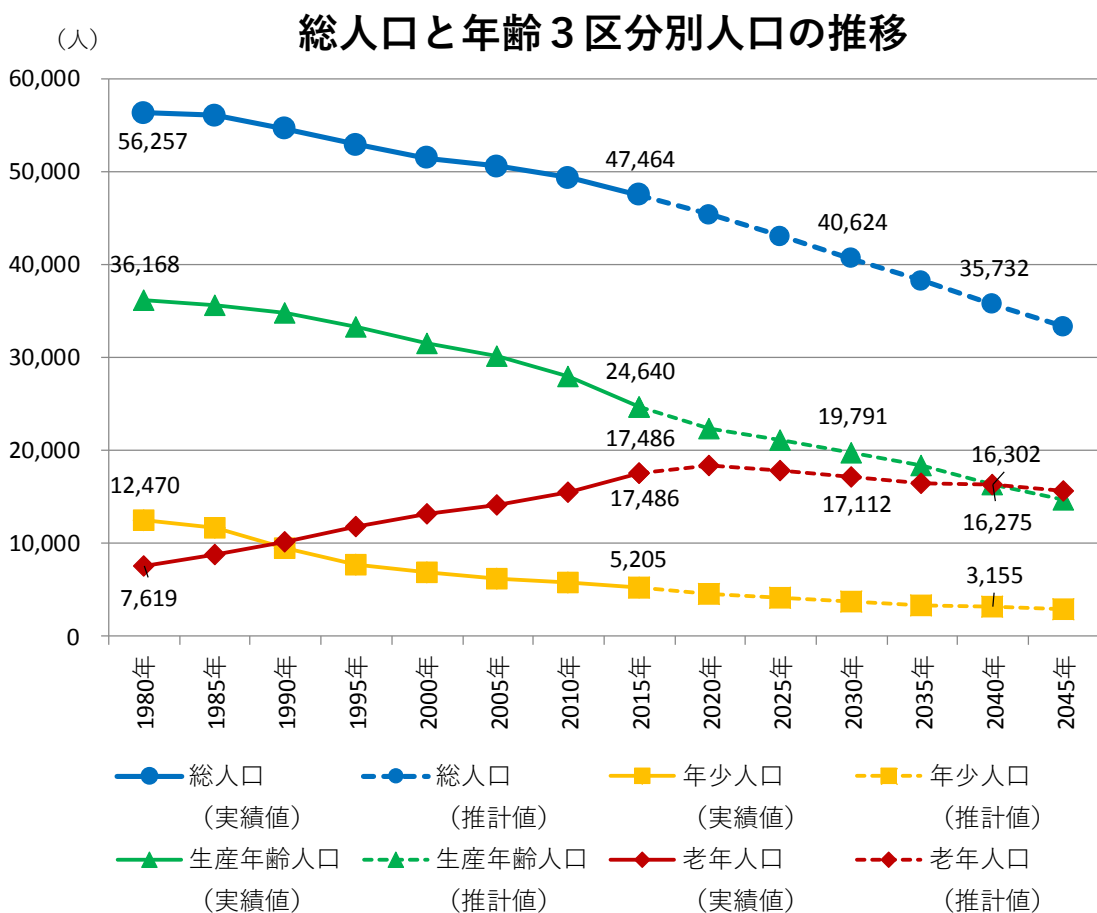
## 第2章 館山市の人口動向分析

### 1. 人口の現状分析と将来推計

#### (1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

館山市の人口は、1980年代以降減少傾向にあり、2015年には47,464人となっています。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推計によれば、人口減少が加速化し、2040年に35,732人に減少するものとされています。

特に、年少人口と生産年齢人口の減少が著しく、2040年の高齢化率は45.6%に達しますが、老年人口そのものは、2020年をピークに減少に転じるものと推計されています。



資料：総務省「国勢調査」

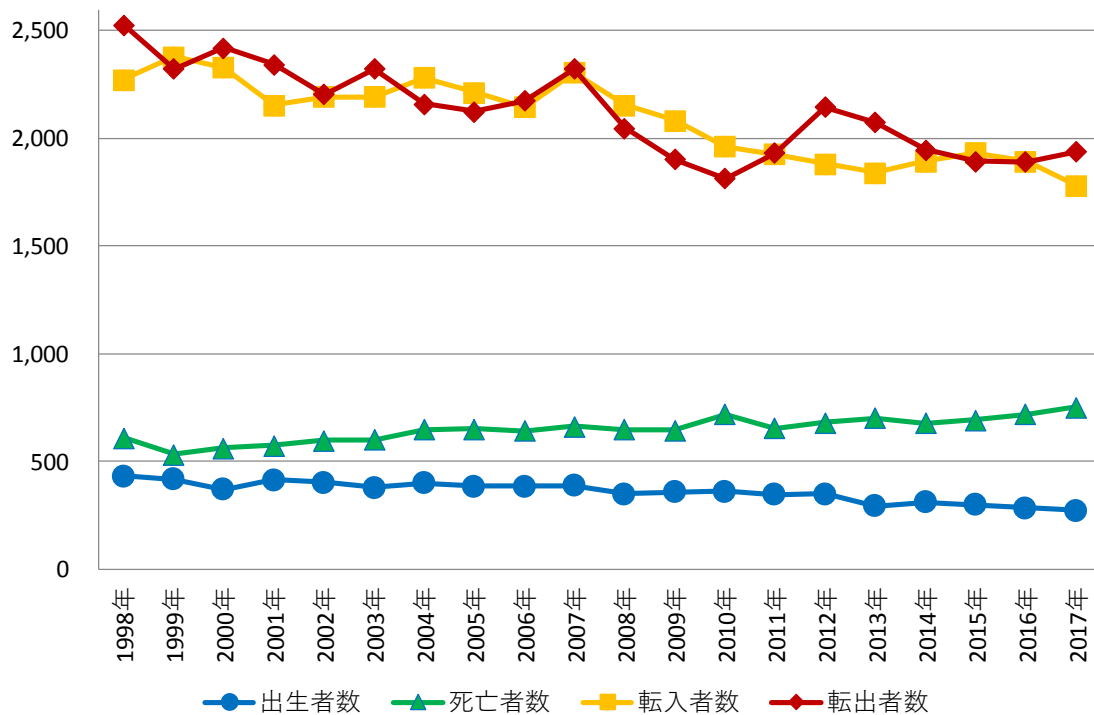
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年3月推計）」

## (2) 出生・死亡数、転入・転出の推移

館山市の人口の自然動態(出生数－死亡数)をみると、20年以上にわたり、自然減(出生数<死亡数)の状態にあることがわかります。近年では、出生数の減少と死亡数の増加により、自然減の規模が次第に大きくなる傾向にあります。

他方、人口の社会動態(転入数－転出数)をみると、年によって社会増(転入数>転出数)、社会減(転入数<転出数)の変動が大きくなっているものの、転出入数が他の年代に比べて多い若年層の人口自体が減少しているため、全体的に、転出入数の規模が小さくなる傾向にあると言えます。

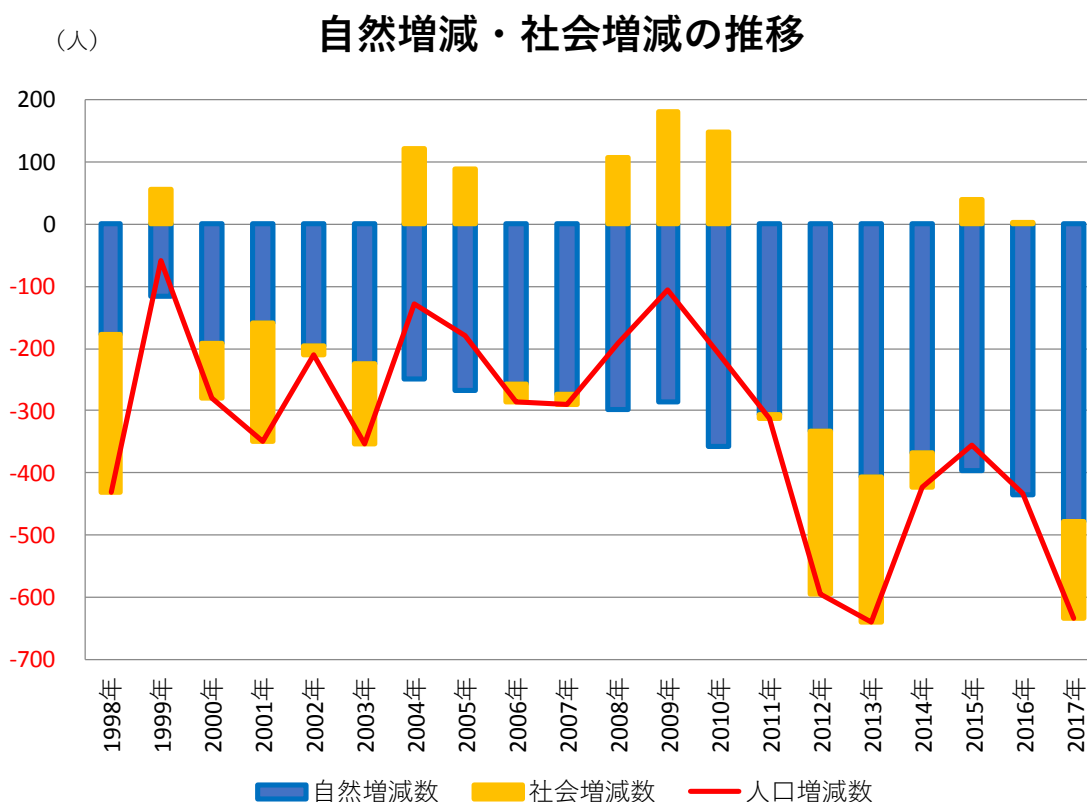
(人) 出生数・死亡数／転入数・転出数



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

### (3) 自然増減と社会増減の影響

館山市の人口の自然増減と社会増減の合計をみると、20年以上にわたり自然減(出生数<死亡数)の状態にあることが影響し、社会増(転入数>転出数)の年でも自然減を補えず、結果的に人口減少が続いている状況がわかります。2012年以降は、東日本大震災の影響により、減少幅が大きくなっていると考えられます。



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」



## 2. 人口の移動分析

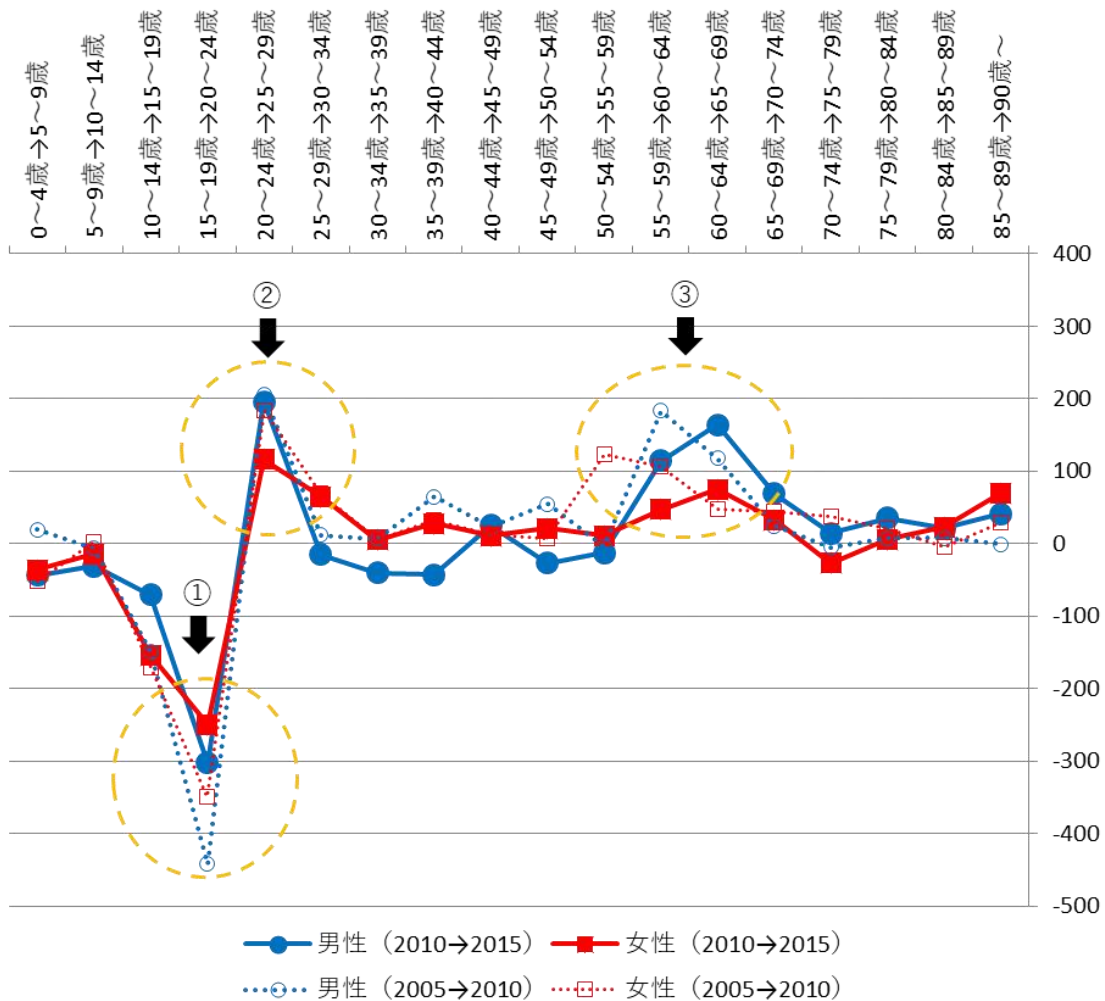
### (1) 性別・年齢階級別人口移動の状況

館山市の人口移動を性別・年齢5歳階級別の純移動(転入ー転出)でみると、特に、進学や就職期にあたる15～19歳→20～24歳の転出超過が顕著であり、大きな“谷”となっていることがわかります(①の箇所)。

他方、20～24歳→24～29歳(②の箇所)、及び60～64歳→65～69歳(③の箇所)では転入超過となっています。これは、大学卒業や定年退職後のUターン等と、それに伴う配偶者の転入が考えられます。2010→2015年の場合、この転入超過には男性が女性よりも多いという特徴が表れています。

### 年齢階級別人口移動

(2005年→2010年, 2010年→2015年)

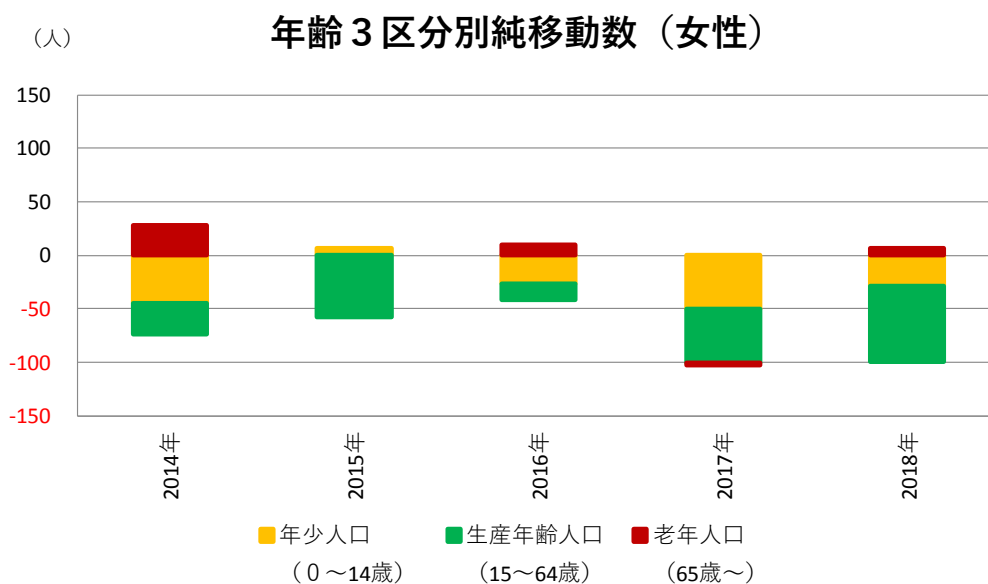
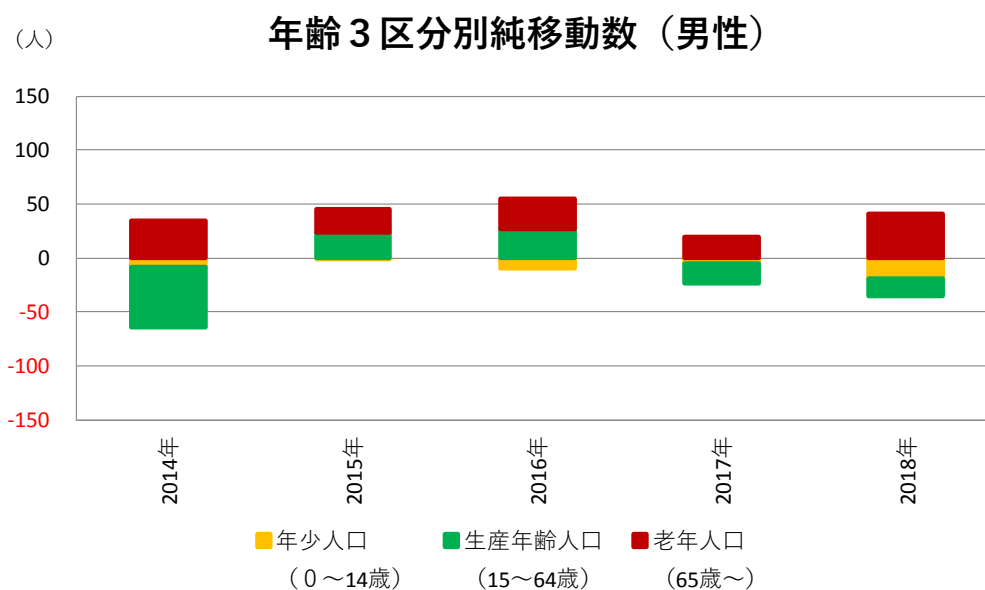


資料：総務省「国勢調査」

## (2) 人口移動の最近の状況

館山市の人口移動を性別・年齢3区分別の純移動（転入－転出）でみると、年少人口（0～14歳）は、男女とも概ね転出超過となっていることがわかります。

生産年齢人口（15～64歳）は、男性には転入超過の年がみられますが、女性にはみられません。また、老年人口（65歳以上）は、男性はすべての年で転入超過となっており、女性に比べて転入超過の規模も大きくなっています。



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

### (3) 転入者・転出者の状況

館山市の人口流動について、2016年から2018年までの3カ年における主な転入元と転出先からみると、下表のとおりとなります。進学・就職に伴う東京都内への転出と、自衛隊関係者と思われる転出入を除くと、千葉県内自治体との人口流動が多くなっています。

千葉県内の主な転入元・転出先との純移動（転入数－転出数）をみると、南房総市・鴨川市などではプラス（転入超過）となっているものの、他の市に対してはマイナス（転出超過）となっています。最大のマイナスは対木更津市であり、3カ年の純移動が－100人を超えています。

【千葉県内の主な転入元と転出先】

単位：人

総数	転入元				転出先				純移動
	2016年	2017年	2018年	3カ年合計	2016年	2017年	2018年	3カ年合計	3カ年合計
東京都	249	250	347	846	236	259	304	799	47
千葉市	92	93	98	283	122	92	108	322	-39
市川市	18	31	23	72	23	33	26	82	-10
船橋市	34	34	37	105	32	41	37	110	-5
松戸市	14	17	28	59	16	15	26	57	2
柏市	25	30	32	87	43	29	33	105	-18
市原市	28	27	29	84	44	57	40	141	-57
木更津市	52	37	48	137	68	91	94	253	-116
君津市	35	28	36	99	39	41	52	132	-33
富津市	22	19	12	53	14	18	27	59	-6
鴨川市	62	43	63	168	46	58	39	143	25
南房総市	222	217	220	659	179	194	219	592	67
鋸南町	※	25	25	50	19	24	21	64	-14

※「その他の市町村」として他と合算されているため鋸南町単独では不明である。

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

次に、千葉県内の主な転入元・転出先との純移動について男性に着目してみると、船橋市・南房総市などではプラス（転入超過）となっています。

他方、木更津市・市原市をはじめとする地域に対しては、大幅なマイナス（転出超過）となっていることがわかります。

【男性】

単位：人

男性	転入元				転出先				純移動
	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	3カ年 合計
東京都	149	160	24	333	23	30	38	91	242
千葉市	45	49	69	163	62	46	67	175	-12
市川市	16	19	15	50	17	19	18	54	-4
船橋市	26	17	25	68	14	18	22	54	14
松戸市	9	9	11	29	12	5	12	29	0
柏市	18	21	23	62	26	20	24	70	-8
市原市	14	18	18	50	24	35	31	90	-40
木更津市	31	25	28	84	31	50	59	140	-56
君津市	18	15	19	52	25	22	26	73	-21
富津市	11	14	8	33	13	12	23	48	-15
鴨川市	25	22	29	76	25	29	27	81	-5
南房総市	110	111	115	336	86	93	106	285	51
鋸南町	※	12	14	26	9	9	11	29	-3

※「その他の市町村」として他と合算されているため鋸南町単独では不明である。

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

千葉県内の主な転入元・転出先との純移動について女性に着目してみると、鴨川市・南房総市などではプラス（転入超過）となっています。

他方、木更津市・千葉市といった交通利便性が高い地域に対しては、大幅なマイナス（転出超過）となっていることがわかります。

## 【女性】

単位：人

女性	転入元				転出先				純移動
	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	3カ年 合計
東京都	100	11	10	121	17	30	30	77	44
千葉市	47	44	29	120	60	46	45	151	-31
市川市	2	12	8	22	6	14	8	28	-6
船橋市	8	17	12	37	18	23	15	56	-19
松戸市	5	8	17	30	4	10	14	28	2
柏市	7	9	9	25	17	9	9	35	-10
市原市	14	9	11	34	20	22	10	52	-18
木更津市	21	12	20	53	37	41	43	121	-68
君津市	17	13	17	47	14	19	28	61	-14
富津市	11	5	4	20	1	6	8	15	5
鴨川市	37	21	34	92	21	29	17	67	25
南房総市	112	106	105	323	93	101	127	321	2
鋸南町	※	13	11	24	10	15	11	36	-12

※「その他の市町村」として他と合算されているため鋸南町単独では不明である。

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

次に、千葉県内の主な転入元・転出先との純移動について、20歳未満に着目してみると、南房総市は一転して大幅なマイナス（転出超過）となっていることがわかります。これは、子育て世代が子どもを連れて転出している状況が想定されます。

これと並んで千葉市、次いで木更津市・市原市などで、20歳未満のマイナスが大きくなっています。

【20歳未満男性】

単位：人

20歳未満 男性	転入元				転出先				純移動
	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	3カ年 合計
東京都	24	24	28	76	31	34	38	103	-27
千葉市	8	6	11	25	17	11	13	41	-16
市川市	2	5	1	8	3	2	1	6	2
船橋市	5	4	1	10	4	2	2	8	2
松戸市	0	0	1	1	0	1	1	2	-1
柏市	1	3	2	6	4	0	0	4	2
市原市	1	5	2	8	6	11	8	25	-17
木更津市	5	6	6	17	6	11	16	33	-16
君津市	4	4	4	12	8	12	12	32	-20
富津市	3	2	0	5	5	4	6	15	-10
鴨川市	7	7	7	21	4	5	8	17	4
南房総市	21	32	17	70	28	30	22	80	-10
鋸南町	※	1	7	8	1	5	4	10	-2

※「その他の市町村」として他と合算されているため鋸南町単独では不明である。

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## 【20歳未満女性】

単位：人

20歳未満 女性	転入元				転出先				純移動
	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	2016年	2017年	2018年	3カ年 合計	3カ年 合計
東京都	11	10	17	38	30	30	28	88	-50
千葉市	5	7	3	15	15	13	13	41	-26
市川市	0	1	2	3	0	4	3	7	-4
船橋市	1	3	4	8	4	8	4	16	-8
松戸市	2	1	1	4	0	0	0	0	4
柏市	1	0	1	2	5	3	2	10	-8
市原市	2	1	0	3	1	6	2	9	-6
木更津市	4	1	3	8	7	6	5	18	-10
君津市	2	3	7	12	1	4	5	10	2
富津市	1	2	2	5	0	2	1	3	2
鴨川市	2	3	5	10	3	8	7	18	-8
南房総市	20	17	13	50	26	25	32	83	-33
鋸南町	※	0	2	2	2	5	3	10	-8

※「その他の市町村」として他と合算されているため鋸南町単独では不明である。

資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

## (4) 通勤・通学者の状況

### ●通勤状況

館山市に居住する就業者のうち、市外に通勤する人の主な通勤地をみると、南房総市が2,000人を超えて極めて多くなっており、次いで鴨川市・木更津市の順となっています。

他方、館山市で就労する従業者のうち、市外から通勤する人の居住地をみると、南房総市が極めて多く4,000人前後となっており、次いで鴨川市・鋸南町の順となっています。

通勤流入の状況を見ると、南房総市・鋸南町以外は全て流出超過となっています。経年変化をみると、鴨川市・富津市では流出超過が50人以上拡大しています。南房総市でも流入超過が大幅に減少しており、館山市の就労の場としての拠点性は低下しています。

### 【通勤流動】

単位：人

	A（館山市に居住する 就業者の通勤地）		B（館山市に通勤する 従業者の居住地）		B－A（通勤流入）	
	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年
東京都	186	165	51	52	-135	-113
千葉市	234	215	43	45	-191	-170
木更津市	324	322	113	123	-211	-199
鴨川市	658	679	608	516	-50	-163
君津市	230	252	137	144	-93	-108
富津市	193	206	156	114	-37	-92
南房総市	2,359	2,385	4,307	3,961	1,948	1,576
鋸南町	236	253	447	433	211	180

資料：総務省「国勢調査」



## ●通学状況

館山市に居住する15歳以上の通学者のうち、市外に通学する人の主な通学地をみると、鴨川市が最も多く100人を超えており、次いで南房総市・木更津市となっています。

他方、館山市で就学する15歳以上の通学者のうち、市外から通学する人の居住地をみると、南房総市が極めて多く、次いで鴨川市・鋸南町の順となっています。

通学流入の状況をみると、南房総市・鋸南町・鴨川市・富津市といった近隣市に対しては流入超過となっており、館山市は就学の間としての一定の拠点性を有すると言えます。

ただし、経年変化をみると、木更津市・君津市では流出超過が20人程度拡大し、かつ流入超過の南房総市では約3割、鋸南町では約5割超過幅が減少しており、就学の間としての拠点性は低下しているものと思われます。

## 【通学流動】

単位：人

	A（館山市に居住する通学者の通学地）		B（館山市への通学者の居住地）		B－A（通学流入）	
	2010年	2015年	2010年	2015年	2010年	2015年
東京都	31	39	7	6	-24	-33
千葉市	46	46	3	2	-43	-44
木更津市	66	85	5	5	-61	-80
鴨川市	106	113	176	168	70	55
君津市	10	28	6	8	-4	-20
富津市	1	7	22	18	21	11
南房総市	89	84	630	454	541	370
鋸南町	0	0	124	66	124	66

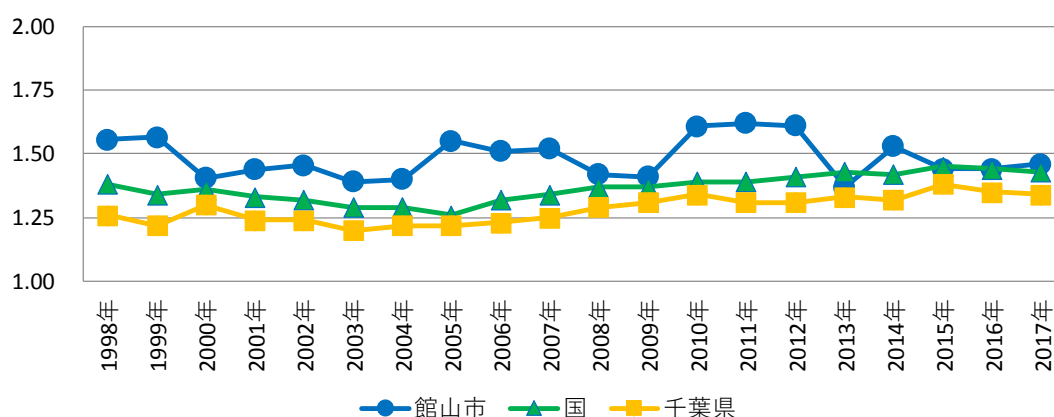
資料：総務省「国勢調査」

### 3. 出生に関する分析

#### (1) 合計特殊出生率の推移

館山市の合計特殊出生率は、国・千葉県と比較して相対的に高い水準にあります。1998～2017年における最高値は2011年の1.61、最低値は2013年の1.37となっています。

合計特殊出生率の推移



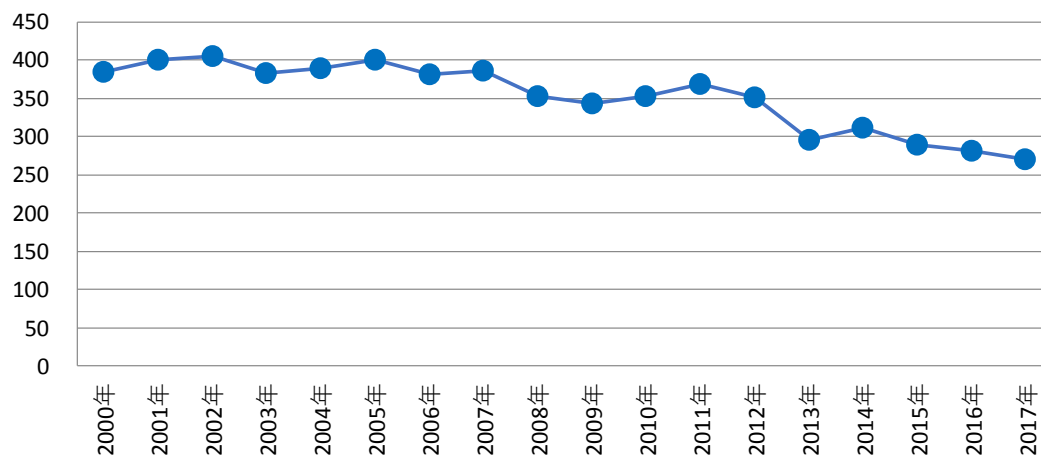
資料：千葉県「千葉県衛生統計年報」

#### (2) 出生数の推移

館山市の出生数は減少傾向にあり、2002年頃は年間400人を超えていたものが、2017年には270人程度まで落ち込んでいます。

この間、合計特殊出生率は一定の水準を維持していることから、この出生数の減少は子育て世代（特に女性）の人口減少に起因しているものと考えられます。

(人) 出生数の推移

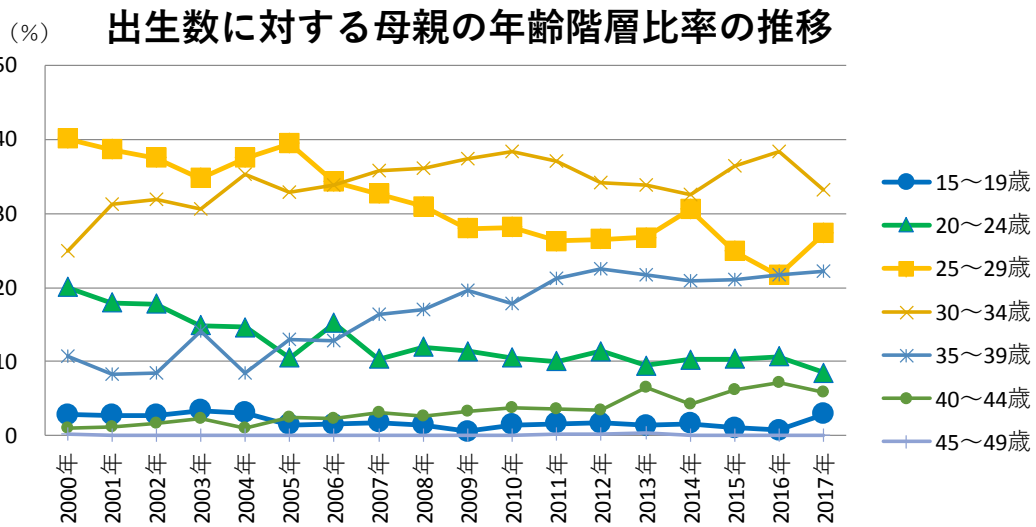


資料：千葉県「千葉県衛生統計年報」

### (3) 出生数に対する母親の年齢階層比率の推移

館山市の出生数に対する母親の年齢階層比率の推移をみると、2006年までは25～29歳の割合が最も高くなっていましたが、以降は30～34歳の割合が最も高くなっていきます。

25～29歳の割合が低下傾向にあるのに対し、35～39歳の割合は上昇傾向にあり、出産年齢の高齢化が進んでいることがわかります。

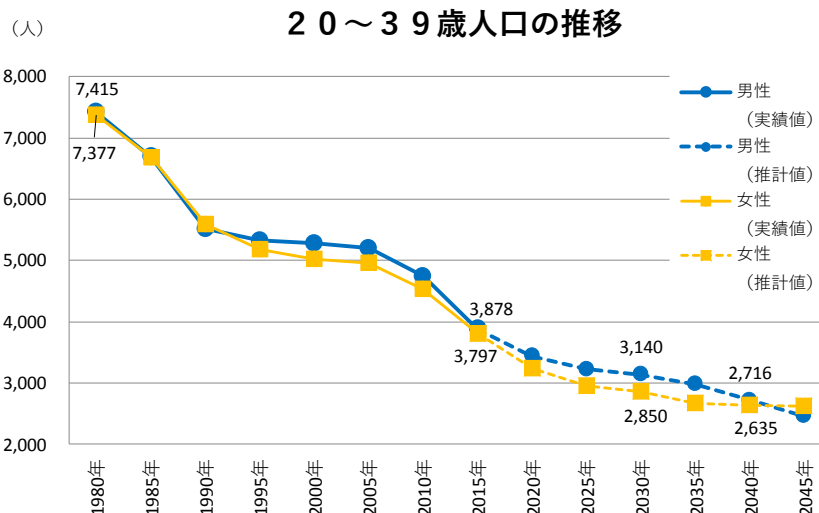


資料：厚生労働省「人口動態調査」

### (4) 20～39歳人口の推移

(3) から、結婚・出産・子育ての中心的世代を20～39歳とし、その推移をみます。男女とも長期的な減少傾向にあり、2040年には、2015年の6～7割の水準となります。

このことから、合計特殊出生率の水準が将来にわたり現状程度に保たれても、出生数は大幅に減少することが予想されます。



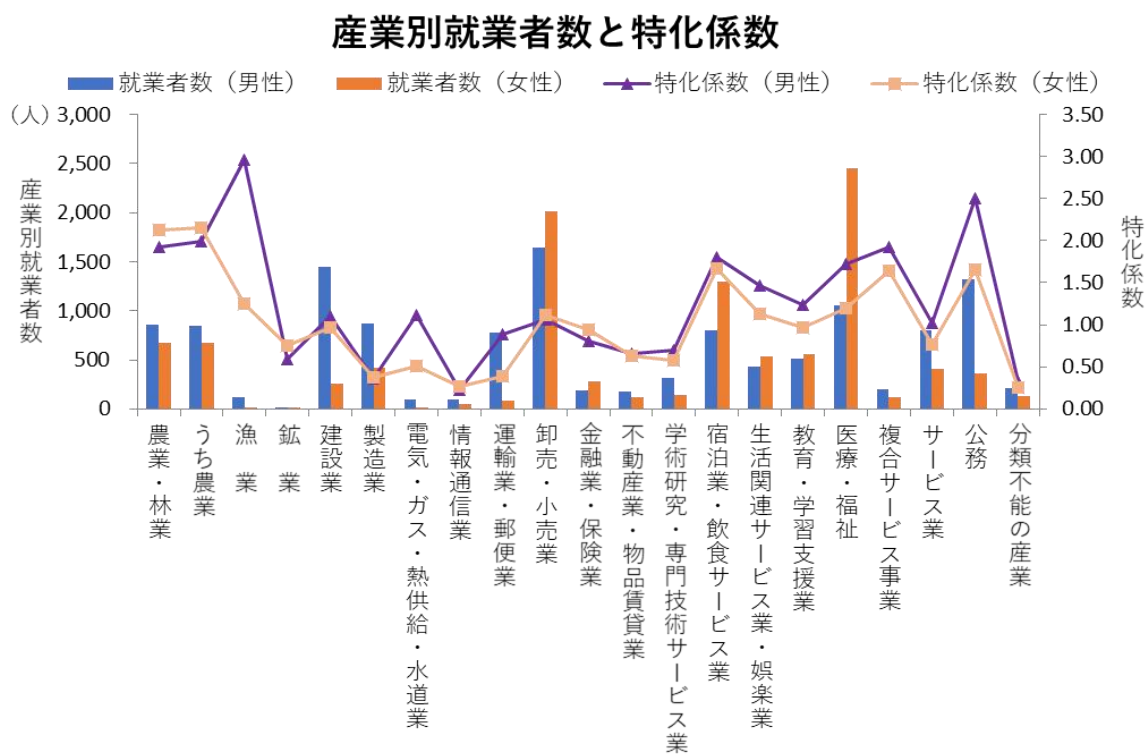
資料：厚生労働省「人口動態調査」

## 4. 産業・雇用動向の分析

### (1) 産業別就業者数と特化係数

2015年における館山市に居住する就業者数について産業大分類別にみると、男性では「卸売・小売業」や「建設業」、「公務」（自衛隊関係者を含む）が多くなっています。就業者数を国の割合＝1とした特化係数<sup>1</sup>でみると、「漁業」（2.96）や「公務」（2.50）、「農業」（1.99）などが目立ちます。

他方、女性では「医療・福祉」や、「卸売・小売業」、「宿泊業・飲食サービス業」への就業者が多くなっています。特化係数でみると、「農業」（2.15）や「宿泊業・飲食サービス業」（1.66）、「公務」（1.65）への就業者比が、国と比較して高いことがわかります。



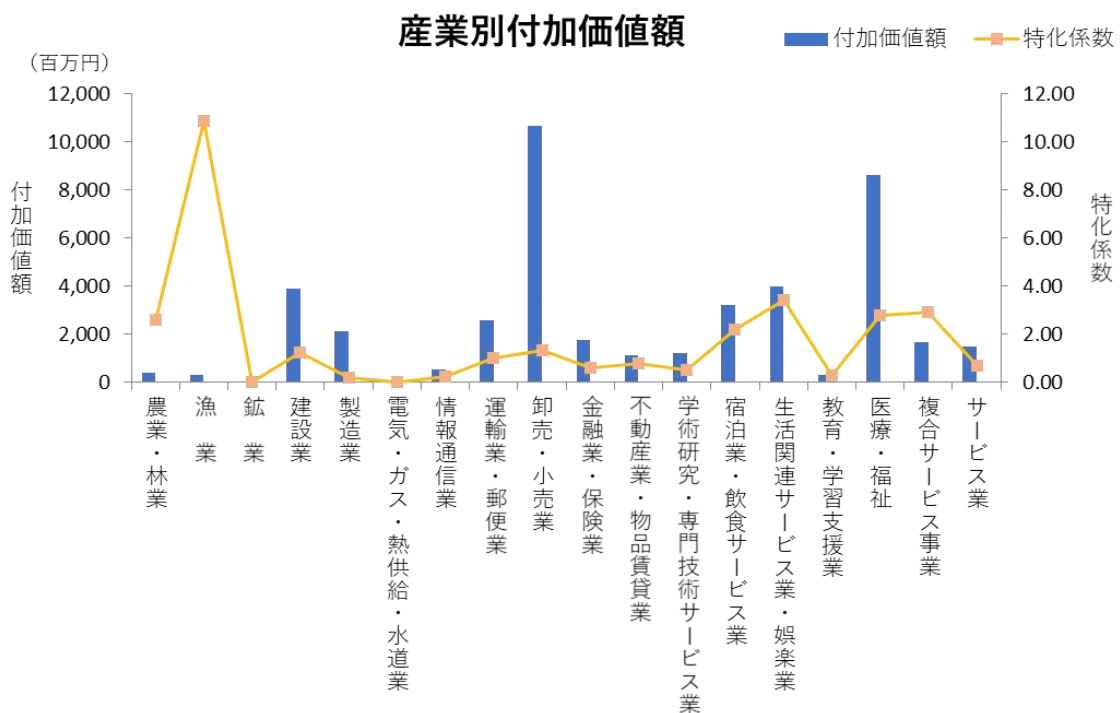
資料：総務省「国勢調査」

<sup>1</sup> 各産業の付加価値額が全産業の付加価値額に占める割合について、国を1としたときの館山市の係数。例えば、館山市の漁業の付加価値額が全産業に占める割合は、国の漁業の付加価値額が全産業に占める割合の2.96倍であり、国に比べ館山市が漁業に特化していることが分かる。特化係数が大きいものほど、館山市の特徴的な産業であることを意味する。

## (2) 産業別付加価値額

2016年における付加価値額<sup>2</sup>を産業大分類別にみると、「卸売・小売業」と「医療・福祉」が目立って多く、これに「生活関連サービス業・娯楽業」や「宿泊業・飲食サービス業」などが続いています。

この付加価値額を国の割合＝1とした特化係数でみると、「漁業」(10.86)が群を抜いて高く、「生活関連サービス業・娯楽業」(3.42)や「複合サービス事業」(2.93)などが続きます。



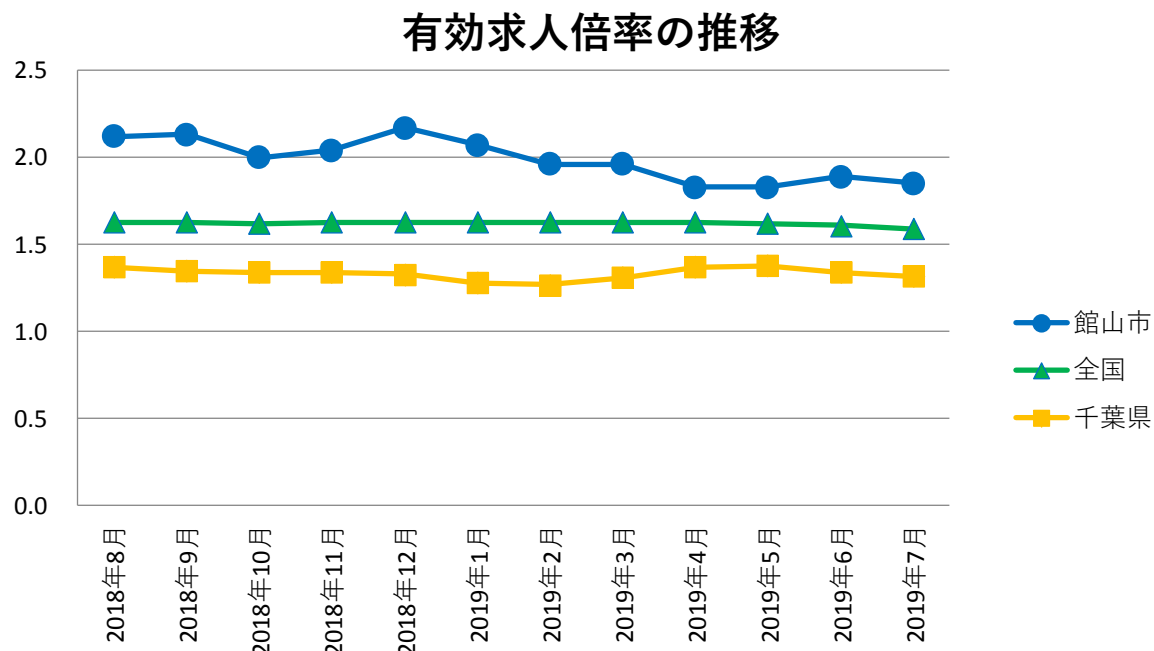
資料：総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」2016年

<sup>2</sup> 企業が生産活動により新たに付け加えた価値。売上高から原材料費・動力費・機械などの減価償却費を差し引いて計算する。付加価値が多いものほど、稼ぐ力のある産業であることを意味する。

### (3) 有効求人倍率の推移

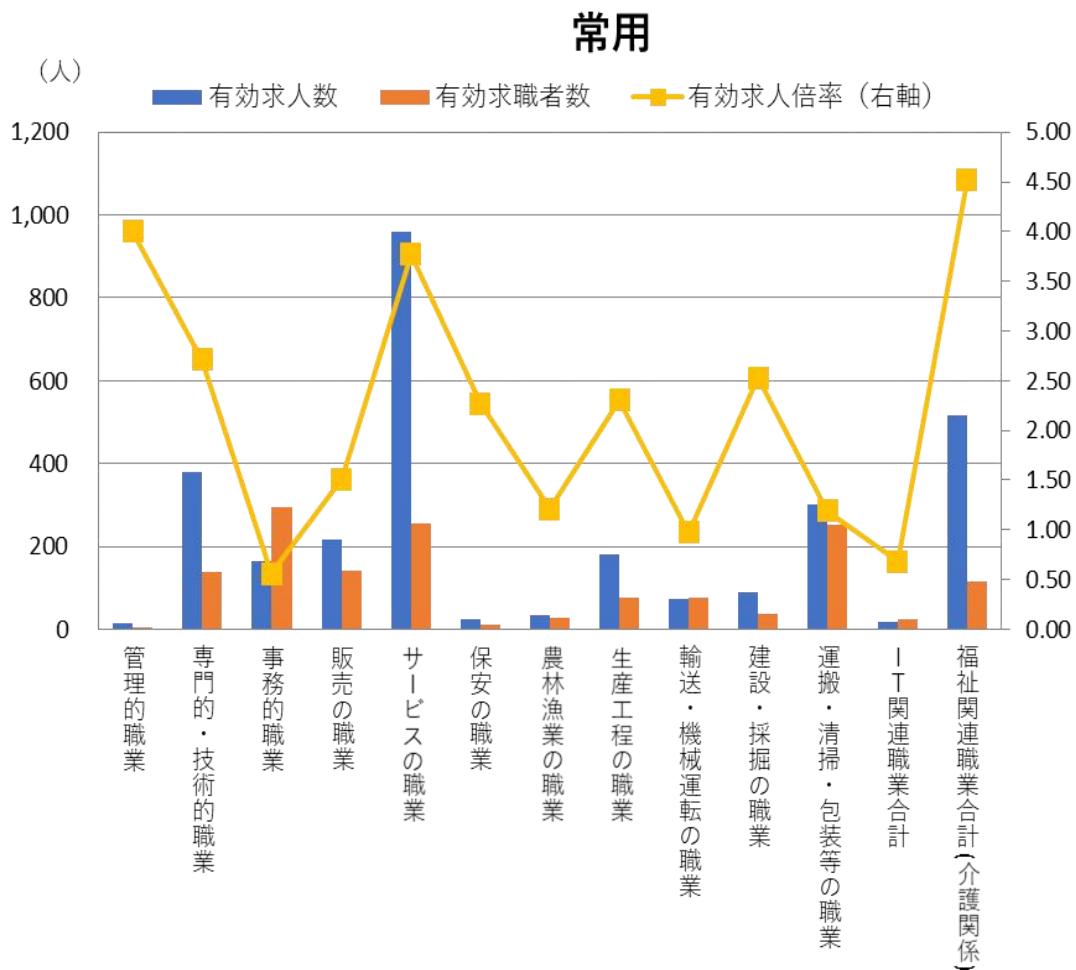
直近1年間の有効求人倍率の推移をみると、館山市を含むハローワーク館山管内（安房3市1町）では倍率2前後を維持しており、国を上回る水準となっています。

千葉県全体では1.3前後に留まっていますが、ハローワーク館山管内の有効求人倍率はこれを大きく上回っており、千葉県下ではハローワーク千葉管内に次ぐ高い水準となっています。



#### (4) 職業別・産業別求人状況

館山市を含むハローワーク館山管内（安房3市1町）における職業別有効求人数・有効求職者数・有効求人倍率（令和元年7月）をみると、「サービスの職業」の有効求人数が最も多く、有効求人倍率も高くなっています。「福祉関連職業合計（介護関係）」は、「サービスの職業」に次いで有効求人数が多く、有効求人倍率では最も高くなっています。この2種の職業については、人材不足が顕著になっています。また、「事務的職業」と「IT 関連職業合計」は有効求人倍率が 1.00 を下回っています。

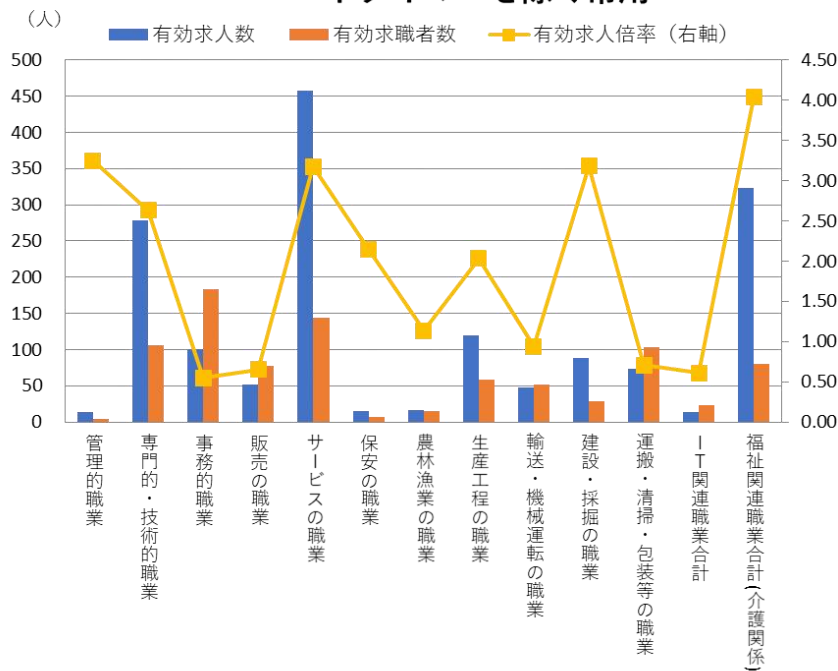


資料：ハローワーク館山（令和元年7月）

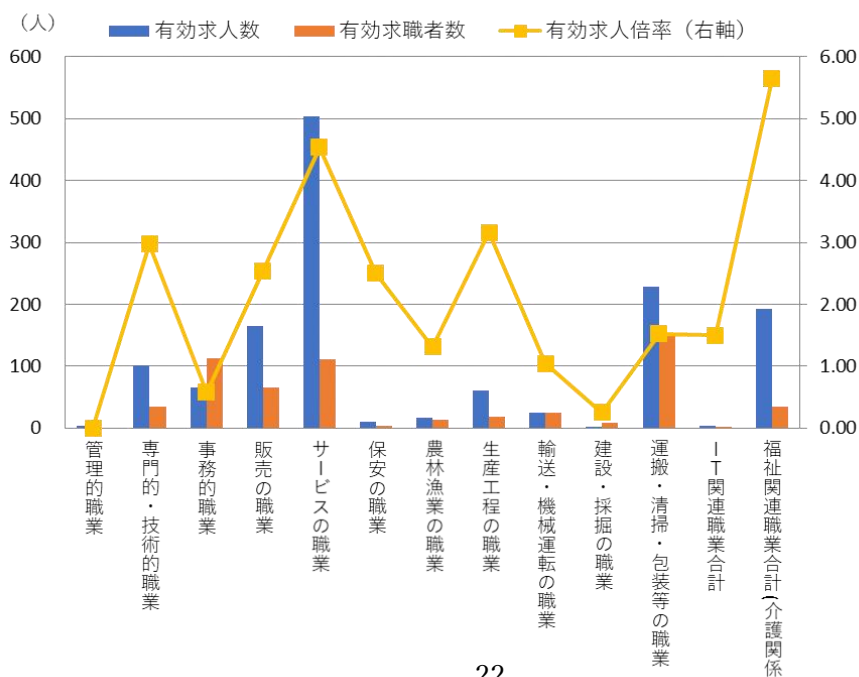
パートタイマーを除く常用と常用的パートタイマー両方において、「サービスの職業」と「福祉関連職業（介護関係）」の人材不足が際立っています。

「販売の職業」および「運搬・清掃・包装等の職業」については、パートタイマーを除く常用では有効求人倍率が 1.00 を下回っている一方、常用的パートタイマーでは 1.00 を上回っており、求職者の働き方の意向と求人の意向がマッチしていないと考えられます。

### パートタイマーを除く常用



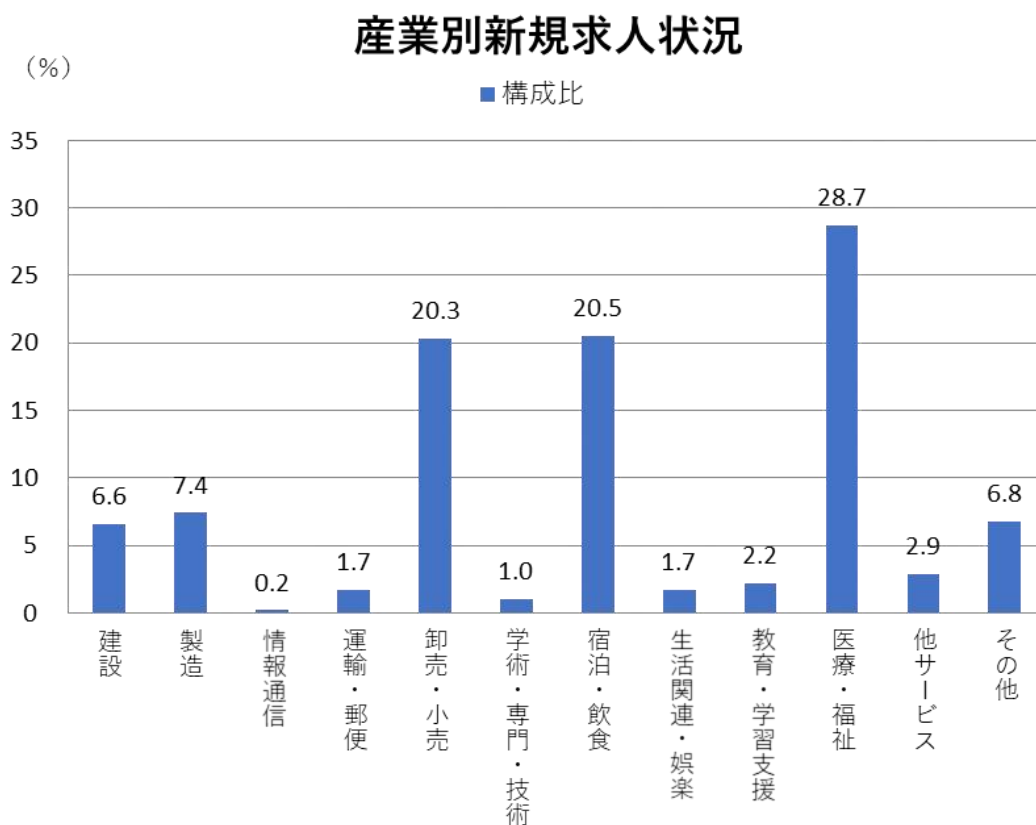
### 常用的パートタイマー





また、産業別新規求人状況をみると、「卸売・小売」、「宿泊・飲食」、「医療・福祉」の産業で新規求人が多いことがわかります。

これは、「産業別就業者数と特化係数」のグラフ（P.18）における女性の就業者数が多い産業と一致しています。



資料：ハローワーク館山（令和元年7月）

## 第3章 人口の将来展望

### 1. 人口減少問題に取り組む基本的な視点

第2章で概観したとおり、現在の状況が続くと、館山市の将来人口は大幅に減少すると推計されています。急激な人口減少・少子高齢化の進行は、労働力不足により地域経済や市財政に大きな影響を与えるだけでなく、市民生活の基盤である地域社会、コミュニティの存続危機や、地域での支え合い・助け合いといった互助機能の低下なども招きます。

このため、館山市としてこの人口減少問題に取り組んでいく必要があり、この必要性は以前にも増して高まっています。

この人口減少問題の根本的解決に向けては、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現による、出生数の大幅な向上が重要となります。これは、館山市のみならず、わが国を挙げて長期的に取り組むべき課題であり、改善には相当の期間を要します。この改善効果が出るまでの間は、一定の人口減少は避けては通れないと考えます。

そこで館山市では、まちの活力を維持し、私たちのふるさと・館山市の素晴らしさを未来へと引き継いでいくために、過度な人口減少を抑制すること、そして、将来を見据えた持続可能なまちづくりを進めていくことを基本的な視点として、この人口減少問題に取り組んでいきます。

#### 【基本的視点】

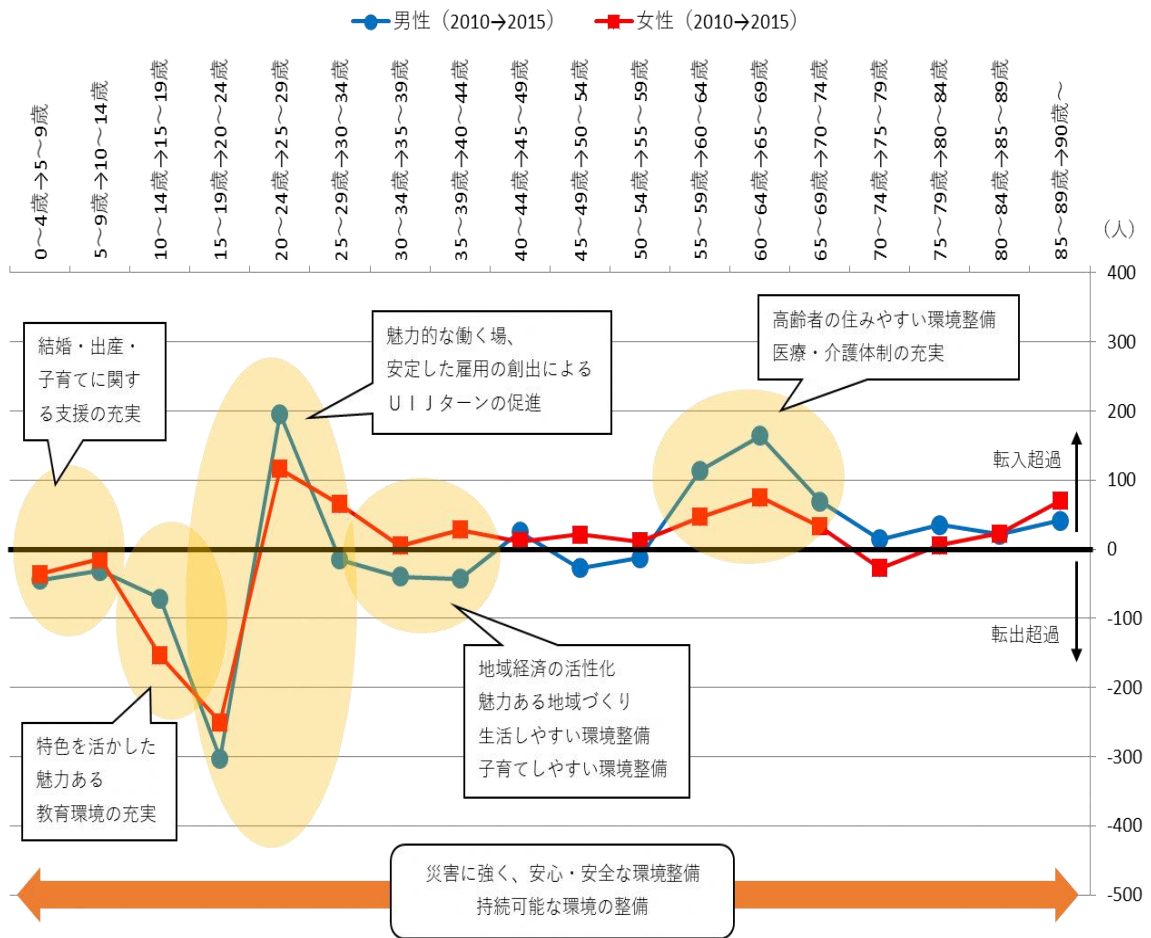
- ◆ 過度な人口減少の抑制とまちの活力の維持
- ◆ 人口減少・少子高齢社会を見据えた持続可能なまちづくり

## 2. 目指すべき将来の方向

第2章で分析したとおり、館山市の人口減少は、少子高齢化に伴う自然減(出生数<死亡数)の影響を強く受けています。

高齢化が進む中、一定の自然減はやむを得ないとも考えられますが、合計特殊出生率が比較的高い水準を維持しているにも関わらず出生数が減少している要因は、子どもを産み育てる世代、若年層の減少にあると言えます。

年齢階級別の人口減少改善に係る取組



館山市では、進学・就職などに伴う若者の転出の多さに比べて、大学卒業などに伴うUターンが少なく、若年層の減少の大きな要因となっています。

こうした流れを改善するためには、転出の主な要因であり、転入の阻害要因ともなっている「魅力的な働く場」の確保が何よりも重要です。有効求人倍率は県内でも高水準であることから、今後は、ICT技術の発展を背景とした「場所を選ばない働き方」といった社会潮流を追い風としつつ、ニーズへのマッチングなどを図っていく必要があります。

また、人口構造そのものを改善し、将来にわたって安定的な人口動態を維持するためには、暮らしやすい環境のもとで、若者が地域に定着し、安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえることができるよう支援し、出生率の向上・自然動態の改善を図ることが大切です。

一方、出生率の向上・自然動態の改善を通じた自然増（出生数＞死亡数）への転換は、短期的に成果を上げることが困難な課題でもあり、市外からの転入促進も必要不可欠です。

そのためには、多くの市民が「住み続けたい」と思える、安全・安心で魅力的なまちづくりを進めることが、「訪れてみたいまち」・「住んでみたいまち」・「帰ってきたいまち」として、館山市への人の流れを生み出し、人口の社会増（転入数＞転出数）につながり、長期的なまちの活性化にもつながるものと考えます。

このように、館山市では、それぞれの世代に対する取組により、合計特殊出生率の向上を通じた人口の自然動態の改善と、転出抑制・転入促進を通じた人口の社会動態の改善を図り、過度な人口減少の抑制と地域の活性化を目指していきます。

**【目指すべき将来の方向】****◆ 館山市の特性を活かした多様な「しごと」の創出**

都心へのアクセス性に優れた地理的特性や魅力あふれる海に囲まれた自然環境、食の豊かさ、都心に近い観光地など、館山市の特性を活かした多様な「しごと」を創出し、「働く場」の拡大とマッチングを通じて、地域の活性化を図ります。

**◆ 館山市への「ひと」の流れをつくる**

館山市の魅力を積極的に発信し、交流人口・関係人口の増加を図るとともに、UJI ターン者や、孫ターン者、二地域居住者の増加など、館山市への「ひと」の流れを生み出す取組を強化します。

特に、人口減少に歯止めをかけ、地域活性化にもつながる若い世代の移住・定住の促進に努めます。

**◆ 結婚・出産・子育てのしやすい「まち」づくり**

豊かな自然に恵まれ、子育て・教育に適した環境を有する館山市は、千葉県内で高い水準の合計特殊出生率を誇ります。

若い世代が安心して、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりをさらに積極的に進め、子育て世代に選ばれる「まち」を目指します。

**◆ 安全・安心で、持続可能な「まち」づくり**

「まち」の活力を維持し、館山市が、将来にわたって安定的に持続していくために、今ある「まち」の魅力に磨きをかけるとともに、子どもから高齢者までが住み続けたいと思える「まち」、災害にも強く、安全・安心で暮らしやすい「まち」づくりを進めます。

### 3. 人口の将来展望

#### (1) 第1期市人口ビジョンの将来展望と現状との比較

館山市の総人口は、第1期市人口ビジョン(表中「第1期ビジョン」と表記)を若干ながら上回る状況で推移しています。2020年には下回る可能性もありますが、概ね、第1期市人口ビジョンの推計どおりと言えます。

合計特殊出生率は、第1期市人口ビジョンの仮定値を下回って推移しています。出生数・死亡数とも第1期市人口ビジョンの推計値を下回る見込みで、高齢化が更に進行することが予想されます。

純移動数(転入数－転出数)は、第1期市人口ビジョンではプラス(転入超過)と推計されていますが、現状ではマイナス(転出超過)となっています。

		2010年	2015年	2020年	2020年数値の説明
総人口(人)	第1期ビジョン	49,287	47,437	45,357	
	現状	49,287	47,467	(45,432)	(2019.6.1推計人口)
合計特殊出生率	第1期ビジョン	-	1.58	1.58	2015-20年の5年間累計
	現状	1.61	1.44	(1.46)	(2017年出生率)
自然動態(人)	第1期ビジョン	-	▲1,873	▲2,221	2015-20年の5年間累計
	現状	-	▲1,812	(▲1,388)	(2016-18年の3年間累計)
出生(人)	第1期ビジョン	-	1,662	1,484	2015-20年の5年間累計
	現状	-	1,599	(832)	(2016-18年の3年間累計)
死亡(人)	第1期ビジョン	-	3,535	3,705	2015-20年の5年間累計
	現状	-	3,411	2,220	(2016-18年の3年間累計)
社会動態 純移動(人)	第1期ビジョン	-	23	141	2015-20年の5年間累計
	現状	-	▲515	(▲267)	(2016-18年の3年間累計)

資料：総務省「国勢調査」「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

#### 【人口の将来展望のポイント】

##### ◆合計特殊出生率は、現状に即した数値とする

第1期市人口ビジョンでは『2025年に1.80、2030年に2.10』としましたが、館山市単独の取組には限界もあり、国を挙げて長期的視点から取り組むべき課題と考えられることから、『2060年に1.80』とします。

##### ◆純移動率は、年齢階層別に異なった数値を設定する

合計特殊出生率が多少改善したとしても、子どもを産み育てる世代が減少すれば、結果的に、生まれてくる子どもは増えないということになります。このため、第1期市人口ビジョンの考え方を基本としつつ、施策・事業の重点的対象者を考慮して、年齢階層別に異なった純移動率を設定します。

## (2) 第2期市人口ビジョンにおける将来展望

社人研「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）-館山市」の仮定値（人口推計に用いるパラメータ）を踏まえ、次の目標値を設定し、将来人口を推計します。

なお、仮定値のうち、生残率<sup>3</sup>と0-4歳性比は、社人研「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）-館山市」の仮定値を用いるものとします。

### 【合計特殊出生率】

『2060年に1.80』を目指し、長期的視点から改善を図っていきます。  
 なお、超長期的には、人口置換水準である2.10の実現を目指していきます。

### 【純移動率】

第1期市人口ビジョンでは、移動率が高い年齢階層の移動率を社人研仮定値から一律で15%改善することを目指していました。

第2期市人口ビジョンでは、さらに重点を絞り、若年層のU・I・Jターン促進のため、各年齢層の移動率を社人研仮定値から以下の通りに改善することを目指します。

- 15～19歳→20～24歳：95%転出抑制
- 20～24歳→25～29歳：125%転入促進
- 25～29歳→30～34歳：125%転入促進
- 30～34歳→35～39歳：85%転出抑制
- 55～59歳→60～64歳：115%転入促進
- 60～64歳→65～69歳：115%転入促進

### 【総人口】

#### ＜目標＞2060年に約3万人を維持する。

社人研推計準拠による人口推計では2060年の館山市の人口は26,712人まで減少するとされます。

しかし、目指すべき将来の方向性に向かった取組を進めることで、合計特殊出生率と純移動率が目標値のとおり改善されれば、2060年には29,337人となり、社人研推計準拠による推計人口と比較して、約2,600人の政策効果（人口減少抑制効果）が見込まれます。

<sup>3</sup> あるコーホート（同期間に生まれた人の集団）の人口が一定期間後（この場合5年後）に生存している割合。1-死亡率。

【館山市の社人研推計人口と将来展望推計人口】

